

25年8月分 プレカットの荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成25年 7月20日～ 8月10日

2. 調査実施方法

全国のプレカット工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
8月分の回答企業数は7社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)=[(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)]÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) プレカット加工用部材の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		25/8月	9月	10月
仕入 動向	国産材製材品	7.1	35.7	21.4
	外材製材品	△ 7.1	△ 14.3	△ 21.4
	構造用集成材	8.3	0.0	0.0
消費 動向	国産材製材品	14.3	35.7	33.3
	外材製材品	△ 14.3	△ 7.1	△ 14.3
	構造用集成材	△ 8.3	16.7	16.7
在庫 動向	国産材製材品	△ 7.1	△ 14.3	7.1
	外材製材品	△ 21.4	△ 28.6	△ 35.7
	構造用集成材	△ 8.3	0.0	0.0

プレカット加工用部材の仕入れは、国産材製材はプラス基調で推移、外材製材は8月以降マイナス基調で推移、集成材は8月のプラスから9,10月は横ばいに。
消費動向は国産材製材はプラス基調、外材製材はマイナス基調で推移、集成材は8月のマイナスから9,10月はプラスに。
在庫動向は、国産材製材は8,9月のマイナスから10月はプラスに、外材製材はマイナス基調で推移、集成材は8月のマイナスから9,10月は横

(2) プレカット工場受注動向 Weight. D. I.

品目	25/8月	9月	10月
受注	7.1	28.6	21.4
加工	△ 7.1	35.7	28.6
受注残	7.1	21.4	14.3

受注は、プラス基調で推移、加工は8月のマイナスから9,10月はプラスに、
受注残は、プラス基調で推移。

モニターからのコメント

(加工用部材荷動き) ・モノ不足ないが、樹種変更を検討中。在庫は資材、人手不足から増加傾向にある。

・輸入材は天井感強く浮き玉も出始める、相場見て焦らずじっくり仕入れる。 ・お盆休みもあり8月は荷動き、受注とも減少、猛暑と職人不足で後半期も苦戦を予想。 ・仕入れは、スギKD材納期順調で価格横ばい、ベイマツKD材は集めやすく価格横ばい、集成材は平角、管柱も不足感なく価格も横ばい今後市況弱いかも。消費は好調、お盆明けの加工が増大する、やっと大工不足が言われ、9,10月は増加が見込まれる。在庫は、外材入荷が順調で、集成材の在庫増えつつある、国産材はいつもどおりで10月頃増えそう。 ・仕入れでまだまだ値上がりのももある、駆け込み需要の増加、在庫確保がむつかしいものが出てきた。

(受注動向) ・受注、加工量とも高水準で推移。 ・8月加工は秋需前のボトムで減少、受注残は9月末頃まで見えており、増加傾向である。 ・受注見通しがあるが、職人不足のため加工の見通しが立たない。 ・当分二交代制での生産でいく。